様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 １７ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００９６４

研究課題名（和文）ルイス・フロイスによる日本情報に関する総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Research about Luis Frois's descriptions concerning Japan

研究代表者
伊川　健二（IGAWA, Kenji）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：７０５６７８５９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は令和元年度から令和３年度の予定で、ルイス・フロイスの著作情報の収集を主たる目的として開始された。令和元年度は国際シンポジウムを実施し、国内外から多くの参加者を得て順調な滑り出しであったものの、令和２・３年度はコロナ禍の影響により、海外調査、研究会開催は見送らざるを得なくなった。一方で、フロイス『日本史』のテキストを精読する小規模研究会はオンライン開催にて実施した。
　研究期間の延長が認められた令和４・５年度には、前者はリスボンにおいて、後者はヴェネツィアを中心に海外調査を実施した。フロイスの記述内容の背景を探る試みと位置づけるべき調査であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ルイス・フロイスは、その著書名『日本史』とともに高い知名度を有している。他方で、膨大な分量の同書の全体像や、他の著作との関連など、充分に解明されてない要素も多い。本研究は、フロイス著作の未解明な部分に脚光をあてることに主眼をおいて活動をおこなってきた。
フロイスは、１５６３年に来日し、１５９７年に他界するまで３０年余の長きにわたって日本を観察した。この時期には織田信長や豊臣秀吉による全国統一が進むとともに、茶の湯などの現代にも受け継がれる文化が成立した。日欧の文化を比較の観点から論じた著作もある。コロナ禍もあり、当初意図した成果は充分には得られなかったものの、今後のさらなる展開を期している。

研究成果の概要（英文）：This research is scheduled to run from 2019 to 2021, and was started with the main purpose of collecting information about Louis Frois's writings. In the first year, we held an international symposium with many participants from Japan and abroad and got off to a good start, but due to the effects of the coronavirus pandemic in 2020 and 2021, we had no choice but to postpone overseas research and study sessions. On the other hand, a small study group to carefully read the text of Frois' History of Japan was held online.
In 2022 and 2023, when we were granted an extension of the research period, we conducted overseas research mainly in Lisbon for the former and Venice for the latter. This investigation should be regarded as an attempt to explore the background of Frois's written content.

研究分野：日本中近世対外関係史

キーワード：ルイス・フロイス　Luis Frois　天正遣欧使節

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ルイス・フロイスは 16 世紀後半の日本に滞在し、戦国時代から織豊期にかけての貴重かつ膨大な情報を書き留めたイエズス会士として一般にもよく知られている。ところが、彼が残した膨大な史料群が、本格的な研究を遂行するための適切な環境下におかれているとはいいがたい。たとえば、手稿本の閲覧が容易ではないことは、既存の刊本を批判的に検討する機会を奪う結果となり、一連の史料群はその知名度とは裏腹に、本格的研究を停滞させる要因となっている。本研究は、フロイスの著作の全体像を可能な限り明確にし、南欧における稿本の所蔵、原文の刊行、邦訳の刊行を整理し、その成果を刊行物として共有することをめざす。

２．研究の目的

本研究の目的は 2 点存在した。

(1)　ひとつ目は、従来個別の著作がそれぞれに刊行され、研究対象とされてきたがゆえに見過ごされてきた、フロイスの著作の全体像の確認であり、その国内外における刊行状況の総括である。

(2)　もうひとつは総括した情報の共有である。フロイスの著作に関する情報を把握するとともに、成果の共有をおこなうことを目的とした。共有は、次の手順でおこなわれる。収集した情報は、共有にさきだって整理と位置づけがされなければならない。この作業を的確に進めるためには、日本の研究者ばかりではなく、可能であればポルトガルからも研究者を招いたワークショップを数次におよんで実施し、議論をし、認識を共有することが有効である。収集した情報の共有方法としては、報告書もしくは書籍の刊行を想定する。

３．研究の方法

本研究は研究代表者、研究分担者各 1 名および国内外若干名の研究協力者を組織として遂行された。研究代表者は予算処理を含む研究全体の総括をおこなうとともに、本研究の骨子であるシンポジウムの開催などを主導した。研究分担者は、東京大学史料編纂所所蔵史料の整理をおこなった。これらに加え、上記 2 名は必要に応じて南欧における文献調査などをおこなった。

具体的な方法としては、国内外の図書館等における情報収集、情報交換のためのワークショップ開催、報告書の刊行などである。これらのうち、報告書の刊行にはいたらなかった。

４．研究成果

本研究は令和元年度から令和 3 年度の予定で、ルイス・フロイスの著作情報の収集を主たる目的として開始された。初年度は国際シンポジウムを実施し、国内外から多くの参加者を得て順調な滑り出しであったものの、令和 2・3 年度はコロナ禍の影響により、海外調査、研究会開催は見送らざるを得なくなった。令和 4・5 年度には研究期間の延長が認められ、海外調査などの活動を実施した。

(1)　国際シンポジウムの実施

令和元年度には、スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）にもとづく国際シンポジウム等開催助成の交付が確定したため、この予算を主軸として、本研究からも費用の一部を負担する形式で、シンポジウム「国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平」を実施した。令和 2 年1月11日に早稲田大学戸山キャンパス33号館3階　第1 会議室にて開催され、ノヴァ大学リスボンをはじめ、登壇者を含めて国内外から 89 名の参加者を得、本研究が意図する協力関係の起点としての役割として充分な機会となった。令和 2 年度には、国際シンポジウムの報告を活字化し、学術雑誌『WASEDA RILAS JOURNAL』8 号の特集 1 として刊行するにいたった。

(2)　海外史料調査

コロナ禍が収束しつつある状況を受けて、令和 4 年 8 月 16 日（火）より 28 日（日）までのポルトガルにおける海外文献調査を、研究代表者伊川健二および研究分担者岡本真が実施した。

調査対象は、トーレ・ド・トンボ国立文書館(Arquivo Nacional Torre do Tombo)、ポルトガル国立図書館(Biblioteca Nacional de Portugal)、歴史・外交文書館（Arquivo Historico-Diplomatico）である。後者はかつて外務省文庫とよばれ、関連研究では「コインブラ，イエズス会学院の蔵本」などと書簡集の存在が簡単に紹介され、少なくとも 1 点の日本関係史料の所在が知られていた。また、東京大学史料編纂所編『日本関係海外史料　イエズス会

日本書翰集』の校訂作業でも当該史料が用いられており、国内未紹介の情報とはいえないものの、史料の全貌は既存の文献からは必ずしも明らかではなかった。本調査では、その全点撮影に成功した。同図書館は、松田毅一『在南欧日本関係文書採訪録』（養徳社、1964 年）205 頁で「外務省文庫 Biblioteca do Ministro dos Negócios Estrangeiros.」の名称にて、次のように説明されていた。以下はその全文である。

外務省文庫に,「日本, インド書翰集」2 冊が存在することを知っていたので, 外務省の Rcssano Garcia, Carreiro de Freitas 両氏の尽力で之を検するを得た。
Armario 28-C の号数を有する ff. 521 の写本 1436 で, 元, コインブラ, イエズス会学院の蔵本であり, 国立図書館の 2 巻に先立つ第 1 巻にあたる。

令和 5 年度は、ルイス・フロイスが『九州三侯遣欧使節行記』で詳述した、天正遣欧使節に関する文献調査および踏査をヴェネツィアを中心に、8 月 17 日から 27 日（28 日帰国）の日程で実施した。この調査は研究代表者が単独でおこなった。ヴェネツィアではマルチャーナ国立図書館、国立文書館において文献調査を、またフェッラーラ、ヴィチェンツァ、パドヴァ、マントヴァにおいては使節の足跡を踏査した。とりわけフェッラーラのエステンセ城では、使節たちが宿泊したとされる一角をほぼ確定し、また展示解説より同時期の食文化についての知識を得ることができた。同地では、使節一行を歓待した食事内容が詳細に知られており、食文化の興隆がこのことと何らかの関係を有するものと見通すことができ、現地の文化史と使節の接点となりうる要素であると思われる。エステンセ城と天正遣欧使節の関係は、以下のように語られている。

ボローニャを発った一行は、フェララ公国に向かった。エステ家の当主アルフォンソ二世は、おびただしい数の貴顕や兵士たちに随伴された使節らが到着すると、宮殿の中庭まで降りて快活に彼らを迎えた。イエズス会からの懇願にもかかわらず、公は使節らが学院に泊まることを許さないで、宮殿内の最も豪華な客間を宿舎に宛った。その部屋は数年前にフランス国王アンリ三世が泊まられたところであった。日向の都於郡や島原の千々石に育った日本の青年らは、いったいどのような心地であったろうか。ともかくそのエステ家の宮殿は、壮麗目にもまばゆいほどであった。（松田毅一『天正遣欧使節』講談社学術文庫、1999 年、262 頁。写真は令和 5 年 8 月 24 日撮影）

(3)　東京大学史料編纂所における調査

令和元年度には、同所収蔵史料に含まれる、フロイス関係の原本・写本情報の把握・調査をおこなった。同所には、日本学士院の依嘱により 1954 年以降に蒐集した、在外日本関係史料のマイクロフィルムが収蔵されている。そのなかから本研究に関連すると思われるものを、既刊の目録およびデータベースをもとに、ピックアップする作業を実施した。令和 2 年度には、前年度に抽出した史料の情報を整理するとともに、追加情報の収集に努めた。そして、前項に記す令和 4 年度の海外調査の際に、その情報を活用した。

(4)　フロイス『日本史』研究会

フロイス『日本史』のテキストを精読する小規模研究会を、当初は対面形式にて、コロナ禍以後はオンライン開催にて実施した。この研究会には、本研究構成員 2 名のほか、数名の大学院生等の参加を得た。

(5)　フロイス関係書籍のデータベース化

フロイス関係書籍のデータベース化作業は、令和元年度には大学院生 1 名を雇用して推進したものの、大学院生の環境にも変化が生じ、データベースの構築作業を予定通りに進めることは断念せざるをえなくなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計15件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　12件）

１．著者名 伊川健二	４．巻 852
２．論文標題 戦国時代の多様な対外関係	５．発行年 2021年
３．雑誌名 歴史評論	６．最初と最後の頁 67-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Hoyos Hattori Paula	４．巻 8
２．論文標題 Frugality, Wonder or Paganism. Representations of Nature in Jesuit Letters Written from Japan (Milan, 1599; Evora, 1598)	５．発行年 2020年
３．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	６．最初と最後の頁 314-319
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岡本 真	４．巻 8
２．論文標題 受洗以前の小西氏に関する一試論	５．発行年 2020年
３．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	６．最初と最後の頁 320-324
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Jose Miguel Pinto Dos Santos	４．巻 8
２．論文標題 Spreading the Faith: Catechesis, Doctrine, and Debates in Jesuit Missionary Work in Japan (1549-1614)	５．発行年 2020年
３．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	６．最初と最後の頁 325-331
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Charles J. Borges	4．巻 8
2．論文標題 A close look at Japan in the writings of Jesuits in the 16th and 17th centuries	5．発行年 2020年
3．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6．最初と最後の頁 332-335
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Timon Screech	4．巻 8
2．論文標題 Thoughts on Some Little-Known Paintings Relating to the Christian Missions in Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6．最初と最後の頁 336-340
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川田 玲子	4．巻 8
2．論文標題 「日本で殉教した(1597年)メキシコ人フェリーペ・デ・ヘスス」：歴史史料としての聖フェリーペ図像	5．発行年 2020年
3．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6．最初と最後の頁 341-345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kojima Yoshie	4．巻 8
2．論文標題 Jesuit seminario dos pintores of Japan and Missionary Art in East Asia: Macau, Manila and Nagasaki	5．発行年 2020年
3．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6．最初と最後の頁 346-349
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 成澤 勝嗣	4．巻 8
2．論文標題 南蛮屏風の変遷	5．発行年 2020年
3．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6．最初と最後の頁 350-352
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 谷口 智子	4．巻 8
2．論文標題 グレゴリオ・デ・セスペデスと文禄の役	5．発行年 2020年
3．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6．最初と最後の頁 353-356
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊川 健二	4．巻 8
2．論文標題 天正遣欧使節の史料学	5．発行年 2020年
3．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6．最初と最後の頁 357-363
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 滝澤 修身	4．巻 8
2．論文標題 「天正少年使節」 -スペイン史料からの再考-	5．発行年 2020年
3．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6．最初と最後の頁 364-368
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 根占 献一	4．巻 8
2．論文標題 キリシタン時代の自己認識と他者意識 -ルネサンスの文化的・思想的資料から	5．発行年 2020年
3．雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6．最初と最後の頁 369-373
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岡本真	4．巻 691
2．論文標題 戦国期の京都商人と対外貿易―遣明船から南蛮船・朱印船へ―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本史研究	6．最初と最後の頁 46-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡本真	4．巻 43
2．論文標題 中世後期の堺と対外貿易	5．発行年 2023年
3．雑誌名 貿易陶磁研究	6．最初と最後の頁 169-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　9件／うち国際学会　12件）

1．発表者名 Paula HOYOS HATTORI
2．発表標題 Between the wondrous and the heathen: The Jesuits' representation of Japanese nature (16th century
3．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2020年

１．発表者名 岡本真
２．発表標題 受洗以前の小西氏に関する一試論
３．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 José Miguel PINTO DOS SANTOS
２．発表標題 Spreading the Faith: Catechesis, Doctrine, and Debates in Jesuit Missionary Work in Japan (1549-1614)
３．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Charles Julius BORGES
２．発表標題 A close look at Japan in the writings of Jesuits in the 16th-17th centuries
３．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Timon SCREECH
２．発表標題 Christian Missions to Japan as a Theme in European Painting.
３．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 川田玲子
２．発表標題 日本で殉教（1597年）したメキシコ人フェリーペ・デ・ヘスス
３．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 児嶋由枝
２．発表標題 日本のイエズス会画派と東アジアの宣教美術―マカオ、マニラ、長崎
３．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 成澤勝嗣
２．発表標題 南蛮屏風の変遷
３．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 谷口智子
２．発表標題 グレゴリオ・デ・セスペデスと文禄の役
３．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 伊川健二
２．発表標題 天正遣欧使節の史料学
３．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 滝澤修身
２．発表標題 「天正少年使節」―スペイン史料からの再考―
３．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 根占献一
２．発表標題 キリシタン時代の自己認識と他者意識――文化的・思想的資料から
３．学会等名 国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計2件

１．著者名 江川，温，Smith，Marc H，田邉，めぐみ，Wijsman，Henri Willem	４．発行年 2022年
２．出版社 Editions de la Sorbonne	５．総ページ数 350
３．書名 Horizons medievaux d'Orient et d'Occident : regards croises entre France et Japon	

１．著者名 岡本　真	４．発行年 2022年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 308
３．書名 戦国期日本の対明関係	

〔産業財産権〕

〔その他〕

【2020年1月11日（土）開催】研究部門「トランスナショナル社会と日本文化」主催
https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2019/11/25/6780/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岡本　真 (OKAMOTO Makoto) (50634036)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
国際シンポジウム　南蛮史料研究の新地平	2020年～2020年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関